

第2回 環境情報と企業価値に関する検討会

セクター別重要環境課題の整理

2017/09/20

国際的フレームワークで扱われる環境課題の概要

リスク要因としての環境課題は、①企業からの排出により環境に影響を与える面、②操業地の環境や原材料等、企業が使用し依存する環境・自然資源の状況から影響を受ける面、及び、③横断的マネジメント課題に大別が可能

各種国際基準	汚染予防	気候変動	資源効率	生態系・生物多様性	横断的マネジメント課題
ISO26000 (2010)	汚染の予防 (大気への排出、排水、廃棄物管理、有毒及び有害化学物質の使用並びに処理、その他の特定可能な汚染[騒音、悪臭、光害、振動、放射、感染因子、侵入生物種等])	気候変動の緩和 及び 気候変動への適応	持続可能な資源利用 (エネルギー効率、水の保全、水の利用及び水へのアクセス、材料の使用効率、製品の資源所要量の最小限化)	環境保護、生物多様性、及び自然生息地の回復 (生物多様性の評価及び保護、生態系サービスの評価、保護及び回復、土地及び天然資源の持続可能な使用、環境に優しい都市開発及び地方・村落開発の推進)	
UNGC: 主要な環境課題 ^[1] (2000)	・大気汚染と、気候変動が招いた結果 ・水生生物の生態系に及ぼす被害 ・化学物質の使用と廃棄による影響 ・廃棄物の産出	・大気汚染と、気候変動が招いた結果	・非再生資源の枯渇	・生物多様性の喪失と生態系に及ぼす長期的な被害 ・土地の劣化	
国連SDGs (2016)		・気候変動 ・エネルギー	・水 ・エネルギー ・生産・消費	・海洋・陸上資源	
CDP (2002～2013)		・気候変動	・水	・森林(木材、パーム油、畜産物(牛)、大豆)	・サプライチェーンマネジメント
GRIスタンダード (2016)	・大気への排出 ・排水 ・廃棄物管理	・大気への排出	・原材料 ・エネルギー ・水	・生物多様性	-コンプライアンス -サプライヤーアセスメント
欧州委員会非財務情報開示指針 (2017)	・重要な汚染予防及び管理 ・直接的、間接的な大気排出 ・廃棄物管理	・エネルギー使用から引き起こされる環境影響		・天然資源の利用と保全(水、土地)及び関連する生物多様性の保護	・製品サービスの輸送及び使用から生じる環境影響 ・グリーン製品・サービスの開発 ・(その他) サプライチェーン、紛争鉱物、製品安全、人権デューデリ等
SASB	・大気質 ・排水管理 ・廃棄物及び有害物質管理	・GHG排出量	・エネルギー管理 ・燃料管理 ・水管理 ・廃棄物管理	・生物多様性影響	・人権及び地域社会との関係 ・ビジネスモデル及びイノベーション(製品及びサービスのライフサイクルへの影響、資産および操業に対する環境・社会的影響) ・リーダーシップ及びガバナンス(システムリスク管理、事故及び安全管理、規制の把握と政治的影響、材料調達、サプライチェーンマネジメント)

SASB マテリアリティ・マップ

SASBは、産業別に重要な持続可能性課題を特定し、マテリアリティマップを作成。(注1)

課題 \ セクター (注)2	ヘルスケア	金融	技術・通信	非再生可能資源	運輸	サービス	資源転換	消費財	再生可能資源・代替エネルギー	インフラストラクチャー
環境										
GHG排出量			○	●	●	○	○	○	○	○
大気質				●	●	○	○		○	○
エネルギー管理	●		●	○	○	●	●	●	●	○
燃料管理	○			○	●	○		○		○
水及び排水管理	●		●	●		○	○	○	●	●
廃棄物及び有害物質管理	●		○	●	○	○	●	○	○	○
生物多様性影響				●	○	○		○	●	○
社会資本(一部抜粋)										
人権及び地域社会との関係	○			○					●	○
アクセス及び手頃な価格	●	○							○	○
人的資本(省略)										
ビジネスモデル及びイノベーション										
製品及びサービスのライフサイクルへの影響	●	●	●	○	○	○	●	○	●	●
資産および操業に対する環境、社会的影響	○	○		○		○		○	○	●
製品パッケージ	○					○	○	○		
製品の品質と安全性	●				○	○	●	●		
リーダーシップ及びガバナンス										
システミックリスク管理		●	○			○				○
事故及び安全管理				○	●	○	○		○	○
事業倫理及び支払の透明性	●	●		○	○	○	○			○
競争的行為		○	●	○	○	○	○			○
規制の把握と政治的影響				○		○	○	○	○	○
材料調達	○		●	○	○		●	○	●	
サプライチェーンマネジメント	●		○	○	○	○	○	●	○	

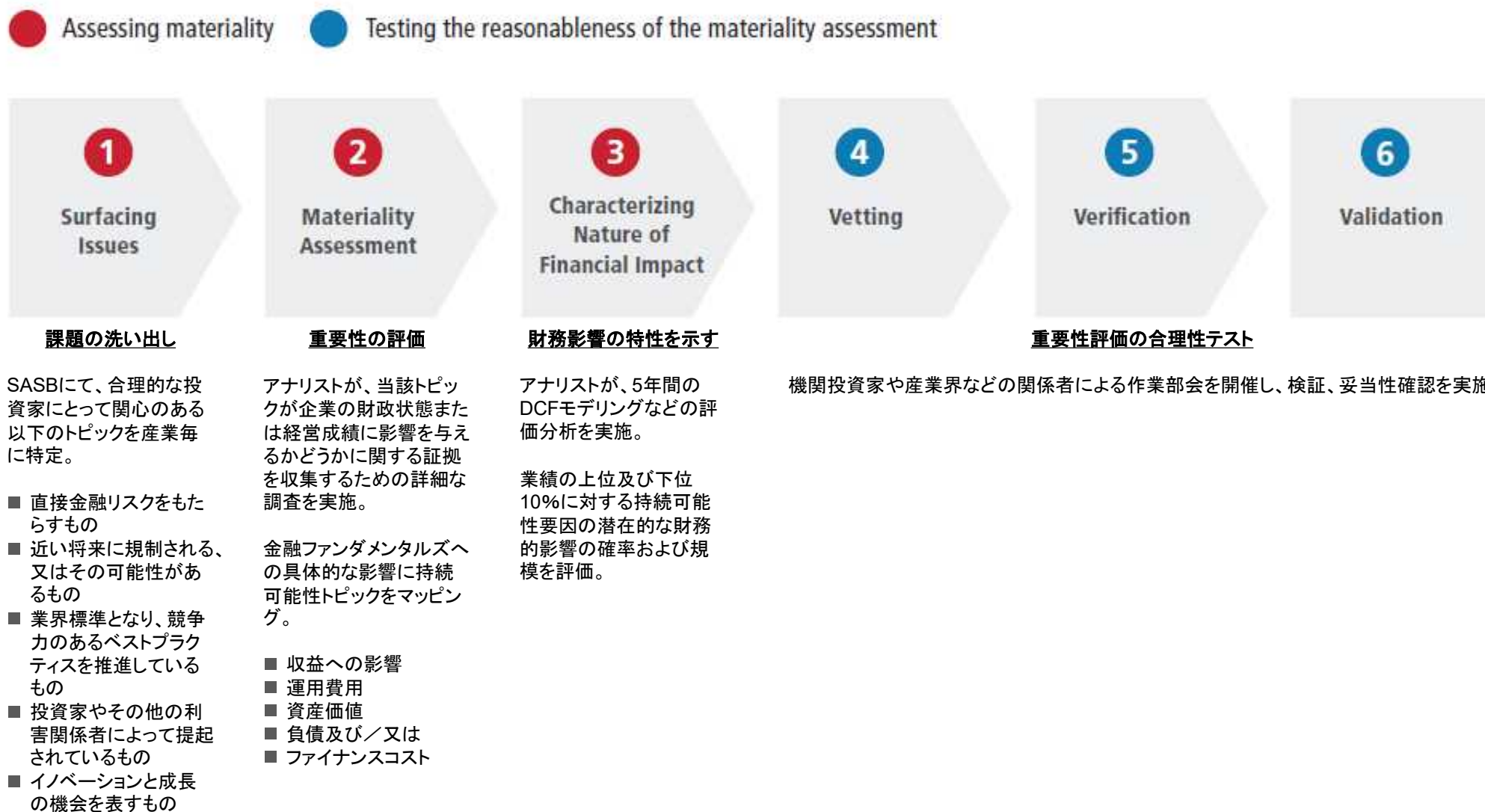
(凡例) ●: セクター内でその課題が重要な産業が5割以上
○: セクター内でその課題が重要な産業が5割以下
無印: そのセクターにとって重要課題ではない

(注) 1. 本マップはSASBの初回分析時点におけるスナップショットであり、課題や産業が常に進化していくにつれて変化する可能性がある。
2. セクターの内訳として複数の産業が含まれており、製造業・非製造業が混在する点には、留意が必要と史料。

(出所) SASBウェブサイト(<http://materiality.sasb.org/>) (2017年9月時点)より三菱UFJリサーチ&コンサルティング作成。© 2017 SASB™ Materiality Map™

SASBにおける産業別マテリアリティの調査方法

Figure 1. SASB Research Methodology



(出所) SASB(2017) Approach to Materiality and Standards Development: Staff Bulletinより三菱UFJリサーチ & コンサルティング抄訳

GRI G4 セクター別の追加的重要課題

GRIは、52の事業活動別に、幅広い利害関係者の意見をもとにしたマテリアルな持続可能性トピックを検討し、セクター別補足指針を作成。

課題	セクター	G4セクター別追加項目						
		空港運営	建設・不動産	電力事業	金融サービス	食品加工	鉱業	石油・ガス
環境								
原材料			○	○		○	○	○
エネルギー		○	○					○
水		○	○	○				○
生物多様性・生態系サービス		○	○	○		○	○	○
大気への排出		○	○	○	○		○	○
排水および廃棄物		○	○	○	○		○	○
製品およびサービス			○					○
コンプライアンス								
輸送・移動		○	○					
環境全般								
サプライヤーの環境評価								
環境に関する苦情処理制度								
★インターモーダリティ(交通の接続交換性)		○						
★騒音		○						
★土壌の劣化、汚染及び回復			○					
経済(一部抜粋)								
調達慣行						○		○
★埋蔵量								○
社会(一部抜粋)								
地域コミュニティ		○	○				○	○
★災害・緊急事態計画及び対応			○	○			○	○
製品責任(一部抜粋)								
顧客の安全衛生		○	○			○		
製品およびサービスのラベリング			○			○		
★アクセス				○				
★アクティブオーナーシップ					○			
★原材料スチュワードシップ							○	
★化石燃料補助金								○

(凡例) ○:セクター別の追加指標があるもの

★:セクター別固有の項目

(出所) GRI G4 各セクターガイダンスに基づき三菱UFJリサーチ & コンサルティング作成

(参考) GRI(2013) Sustainability Topics for Sectors: What do stakeholders want to know